

今の自分に感謝

高知市立城東中学校三年 保科結乃

私は、生まれつき背骨が曲がっていて、背中が反っています。なぜかというところ、脊椎癒合症という病気で、背骨がくつついていたりためです。私は小学校の頃から身長が伸びないので、人に笑われたり、からかわれたりすることがたくさんありました。

「どうして私だけこんな目に遭わないといけないのだろう？」

私は、悲しみと悔しさで、泣くこともありました。

私の家は転勤族で何度も転校を繰り返してきました。私は、自分の見た目が気になり、転校するたびに周りの反応を恐れ、すぐに周りの環境になじむことができませんでした。また、周りの人からは、腫れ物に触るような扱いを受けることもありました。優しく話しかけてくれる人がいても、その人に迷惑をかけているのではないかと不安になり、自分自

身に全く自信が持てませんでした。

この自信のなさは、どこから来るのでしようか。私はいつも普通の人になりたいと、強く願ってきました。でもそれは、自分が他の人と違うことに対しての劣等感の裏返しであり、それを変えたいと、私はある日ふと、思いました。自信を取り戻すために。

劣等感とは、人と比べるところから湧いてくる感情ではないでしょうか。「普通とは何だろう」と私の思いはさらに深まりました。「普通」という言葉の意味は「いつ、どこにでもあるようなありふれたもの・他と特に異なる性質を持っていないさま」という意味です。

しかし、人は一人ひとりに異なる個性があり、「ありふれたもの」ではありません。そもそも「普通の人」という言葉自体が間違っているのではないのでしょうか。私は、自分が他の人と違うことに不安を感じ、その違いを恐れていました。しかし今では、周りの人が私をどう思うかを気にするより、自分の個性を大

切にしていきたいと思っ
ています。一度傷付
いた経験を持っている
からこそ、人が抱える
痛みや苦しみに気付く
ことができると思います。

私は先日、大久保暁さんという人のLGB
TQについての講演を聴
きました。LGBTQの人
だけが特別ではなく、
多くの人の中の一つの
個性であるという話を
聴いて、新たな視点で
物事を考えることができ
るようになりました。
誰か一人だけが違
うのではなく、みんな
が違うということに
気づきました。「私
だけが「普通」と違
うことに悩んでいる
わけではない。この
ことは私に、安心を
与えてくれました。

近年よく耳にする「多
様性」という言葉は
私の「普通」に対する
答えのようでした。「
一人ひとり違って当
り前」という考え方が
重要になるのです。「
人間らしく、自分ら
しく」笑顔で過ごす
ことのできる社会を
築くためには、個人
の意識から変えてい
くことが大切だ

と思います。一人ひとりの個性を認め、受け入れることが、人権を守り、偏見や差別のない社会を実現するための第一歩であると思います。一人ひとりの判断や行動が、たくさんの人の人権を守ることに繋がっていくと思います。

一九四八年に採択された世界人権宣言には「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」とあります。世界人権宣言が採択された背景には、第二次世界大戦中に特定の人種や集団に対する迫害や重大な人権侵害がされていたという歴史があるそうです。「生まれながらにして」私は病気を持っていました。けれども、マイナスなことばかりではありません。他の人より、人の痛みに気付くことができた、人と自分に優しくなれたりします。また、周りからうける優しさにも、気付くことができます。ようになります。

私は、去年の一月から生徒会の一員として

学校をよりよくするための活動を行っていき
す。生徒会の仲間と活動することはとても楽
しく、私の一日を充実させてくれます。私に
とって生徒会は大切な場所です。私が今、こ
うして充実した日々を送れているのは、私を
選んでくれた人、助けてくれる仲間や先生が
いるからです。当たり前と思うのではなく、
一つ一つの物事に対する感謝の気持ちを忘れ
ないようにしたいです。助けてもらったら「あ
りがとう。」と言う。相手が困っている時には
助ける。感謝から生まれる、助け合いの輪。
感謝の気持ちを常に忘れないようにしていき
たいです。

病気のこと、泣いていた過去の自分に、
私は今、「つらい経験をしたからこそ、見るこ
とのできる世界がある。」と言いたいです。ま
た、前向きな今の自分には、「周りの人へ感謝
を伝えることを忘れずに。」と伝えたいです。

そして、未来の自分へ。

どんな困難なことにぶつかったとしても、

あなたなら、乗り越えられる。周りの人と過

去の自分に感謝を！